江波山気象館
お天気歴史講演会

『浅野氏広島城入城400年』
浅野氏広島城入城400年記念事業

歴史に学ぶ防災
～江戸時代の自然災害～

電話にて、事前申し込みが必要です。各先着120名。
第一幕申し込み開始8/1(木)、第二幕申し込み開始9/3(火)です。

《申込先・会場》江波山気象館 ☎082-231-0177　《入館料が必要です》大人100円　高校生50円　シニア50円
※詳しくは裏面をご覧ください。

第一幕
「江戸時代のメディア〝かわら版〟〝なまず絵〟から災害を読み解く」
9月1日(日)14:00～15:30　申し込み開始:8/1(木)～

講師 北原 糸子 氏
(立命館大学歴史都市防災研究所 客員研究員)

江戸時代は情報統制がきびしかった時代です。特に幕府政治に関わる事柄への批判を公にする自由はありませんでした。しかし、江戸時代の中頃に災害が多発するようになると、災害に関わる情報はかわら版を通じて民間に流れるようになります。災害の予告や防災情報が流れたわけではありませんでしたが、多くの人の生死にかかわる事柄でしたから、幕府はこれを黙認したのです。

江戸や大坂のような人々の集まる大都市では、人々は競って事件や事故の情報を求めました。こうした情報が新しい価値を生むこともあったからです。あらゆる情報の伝達役は、飛脚問屋やその情報をもらい受け、民間に流す読売り(かわら版屋)でした。情報の統制がきびしかった時代だけに、災害を一見茶化したような、なまず絵に、かわら版屋は当時の人々の本気もちらっと描き込んでいます。江戸時代のかわら版は当時の社会を読み解く格好の材料でもあるのです。ご一緒に、かわら版やなまず絵を読み解いてみましょう。

第二幕
「近世広島の豪雨災害と社会的応答」
10月6日(日)13:00～14:30　申し込み開始:9/3(火)～

講師 中山 富広 氏
(広島大学大学院文学研究科 教授)

広島藩は沿岸島嶼部と内陸部台地、そして中国山地山間部からなっており、その自然地形は複雑です。とくに太田川流域の中・上流域の地形は急峻であり、下流域の広島平野(デルタ)は洪水の被害を受けやすい地形となっているといえましょう。事実、大小の豪雨災害を数えれば100回を超えております。

本講演では、全体的に天候異常・不順を念頭におきながら、江戸時代の広島の主要な豪雨災害を紹介しますが、なかでも承応2(1653)年、寛政8(1796)年、天保8(1837)年、嘉永3(1850)年の大災害の様相を紹介していきます。この時代におきまして異常気象による豪雨災害を防止する効果的な対策はあまりなかったといえますが、逆に災害を拡大することになった要因はいくつか挙げられるでしょう。諸対策と人災的側面、すなわちこうした災害に広島藩や民間社会がどのような対応(応答)を見せたのか、考察してみたいと思います。

※この催しは、広島市高齢者いきいき活動ポイントの対象です。

広島市江波山気象館
HIROSHIMA CITY EBAYAMA MUSEUM OF METEOROLOGY

ご来館には公共交通機関をご利用ください。

〒730-0835　広島市中区江波南一丁目40番1号　TEL(082)231-0177　FAX(082)234-1013　ホームページアドレス http://www.ebayama.jp